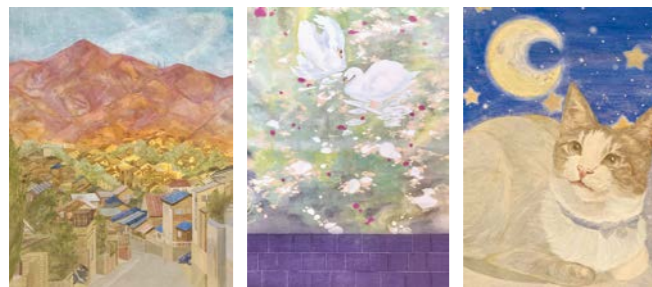


充実した生活を送れる大学。

岩本 茉奈実さん

愛知県立芸術大学 日本画専攻3年
2018年度 日本画専科 / 2019-2020年度 日本画本科
名城大学附属高校出身



1 2 3



4
1.「坂の向こう」
2.「倉敷川の白鳥」
3.「またたき」
4.「信貴山縁起絵巻模写」

愛知県立芸術大学にきて良かったことは、学びたいことに集中して取り組めることと、先生方と話し合える機会が得やすいことです。

日本画専攻は1学年約10人と少人数で活動しているので、小下図研究会や講習会では一人ひとり時間をかけて具体的なアドバイスをいただくことができます。空き時間には散歩したり、風通しの良い場所でのんびり過ごす等豊かな自然を楽しめます。

また、自分が何を表現したいのか見つめ返せる授業が多くあります。特に印象に残っている授業では、先生による知識のご教授だけでなく、生徒が興味を持っていることや制作に生かしたいこと、悩んでいることを知り、それに近い芸術作品や社会運動の例を提案してくださいました。言語化が苦手でも勇気を出して発言したことで、ぼんやりした考えを探求するきっかけをつかむことができたのはとても大切な一歩になりました。他分野も学んでいく中で魅力的に感じたことを、日本画特有の絵肌や表現技法と合わせて制作できないか模索する日々はとても有意義です。

自分の専攻について集中的に学びたい方も、さまざまなことに取り組みながら制作したい方も充実した生活を送れる大学だと思います。

自分の価値観を変える出会い。

内藤 丈晴さん

東京芸術大学 日本画専攻3年
2017年度 日本画高2日曜専科・基礎高1・2年専科 /
2018-2019年度 日本画専科 / 2020年度 日本画本科
安城高校出身



僕が東京芸術大学に通ってみて感じたことは、人は一人ひとり違った個性を持っているということです。当たり前のことかもしれませんが、専門分野として本気で個性と向き合っている人たちの中で過ごしていると考え方や感じ方、身体的な目の見え方、手の動かし方、自分が何を美しいと感じるかなどを作品やコミュニケーションからそれぞれが違った個性があると実感する瞬間がたくさんありました。河合塾に通っていたころはあまり実感できていませんでしたが、芸大では制作への自由度も高まりみんなが自分の作品でやりたいことをのびのびと表現しています。そんな中で過ごしていると今まで気がつかなかった個性の尊さを感じることができました。

また、座学の授業もおもしろいものがたくさんあります。芸大でなければできない体験をすることができると思います。僕は「アート×福祉」をテーマにした授業を受講しており、そこでは障がいや社会課題などで生きづらさを感じる人達をアートや多様性という切り口で向き合い改善していく取り組みがされています。僕は実際に児童養護施設に訪問しワークショップを行い現場のリアルを感じそれを作品として展示したり、サッカースタジアムのセンサールームの制作に少し携わらせてもらったりしました。この授業だけではなく芸大だからこそできる贅沢な体験が座学の授業ではできると思います。

芸大には自分を変えてくれる人、物、事がたくさんあります。閉鎖的にならず、わからないけどちょっとやってみようという姿勢が自分の価値観を変える出会いにつながると思います。



1 3



2 4

1. コンセント
2. 紙袋
3. 源氏物語絵巻模写
4. 制作風景

糸口を見つけて門戸を叩いていく姿勢を、河合塾で学ばせていただいたように感じています。



古山 結さん

東京芸術大学教育研究助手

東京芸術大学 大学院美術研究科美術専攻日本画領域博士後期課程修了
2010-2011年度 日本画本科
東邦高校出身

河合塾では浪人の2年間と、高校3年生の後期にお世話になりました。現在は、出身大学で教育研究助手をしながら、作品制作・発表を行っています。

私は高校入学時に、美術科のある高校への進学を決めましたが、その時点で、大学進学やその後の展望について明確に考えられていたかとういこと、そんなことはありませんでした。美術は、職業として成立しづらい側面を持っていて、当時は作品を売って生きていくことなど想像できていませんでした。

大学への進学は、制作に打ち込む時間の確保を筆頭に、さまざまな面で現在の活動への足がかりとなりました。なかでも制作への刺激や美術を取り巻く環境に関する知識を得る機会を持ったということは、大きな手助けだったと思います。「作品をつくりたい」と思っている人たち（クラスメイトや教授、先輩など）と、「作品を広めたい」と考えている人たち（ギャラリストや学芸員など）、そのどちらともかわり

を持って居る場合は貴重でした。授業や制作のみならず、大学生活で起こることすべてが学びの対象でした。

浪人当時の河合塾の授業は、受験対策に必須なものだけでなく、対象への多角的な視点を育むための実技演習や、作家研究、時には外へ飛び出して、美術館見学などの課外授業、団体でのスポーツ大会やキャンプなども行ってました。そういった、一見不要に見える活動の中で、「絵を描くことの周り」について、認識を深めていったような気がします。

大学進学・卒業後、社会で得られるさまざまな機会は、必ずしも誰かから提供、供給されるものではありません。それでも、何か糸口を見つけて門戸を叩いていく姿勢のようなものを、河合塾での浪人時代に学ばせていただいたように感じています。



1 2 3



4 5 6

1.「往来」2023/51×69cm/岩絵具・水干絵具・膠・雲肌麻紙・木製パネル
2.「また萌ゆ」2023/130.5×162.5cm/岩絵具・水干絵具・膠・下地材(μグラウンド)・木製パネル
3.「murmur」2023/72.5×72.5cm/岩絵具・水干絵具・膠・下地材(μグラウンド)・木製パネル
4.「ここから先は あなたの庭」2023/19×30.4cm/岩絵具・水干絵具・膠・下地材(μグラウンド)・木製パネル
5.「予感が始まる」2023/10.2×18.5cm/岩絵具・水干絵具・膠・下地材(μグラウンド)・木製パネル・クレヨン
6.「枝が降る」2023/41.2×33.5cm/岩絵具・水干絵具・膠・下地材(μグラウンド)・木製パネル・線形